

BUNND

旧英国領事館 国指定重要文化財



1858年（安政5年）、諸外国との修好通商条約が結ばれた後、長崎は開港場として自由貿易を開始し、外交事務が始められた。1908年（明治41年）、上海の英国技師ウィリアム・コーワンの設計に基づき、長崎市大浦町の後藤亀太郎が施工、旧英国領事館が完成、大戦中の1942年（昭和17年）頃まで当初の用途で使用された。1955年（昭和30年）に長崎市の所有となり、その後1990年（平成2年）に国の重要文化財に指定された。明治後半期の洋風建築として、造形・意匠の面からも、歴史的並びに景観上貴重であるばかりでなく、近代日本外交史の一端を示す資料としても価値が高い。

（写真：『華の長崎』（長崎文献社刊）より）

史跡
英国商館跡

長崎日英協会設立趣意書

海洋国日本の中で、特に海と島に恵まれた長崎は住時から多くの港を経由して海外との交流の窓口をつとめてきました。出島を基地としたポルトガル、オランダとの交流は江戸鎖国時代、日本唯一の貿易、文化の窓口として大きな役割を果たしてきました。

更に、幕末から明治にかけて我が国産業、文化の近代化に偉大な貢献を果たした数々の英国の人達は長崎の歴史の中でも、特に光り輝く存在として万人の認めるところです。洋式採炭、造船、外国航路開設、トロール漁法、ビール醸造、郵便事業、鉄道等々明治の日本の近代化は長崎からスタートしたと言っても過言ではありません。

またグラバー園を始めとして旧香港上海銀行長崎支店、旧英国領事館等、南山手・大浦海岸通り一帯の建造物は長崎の異国情緒をかもしだす歴史的遺産です。

私達は、これら長崎と英国との深い関わり合いを再認識し、先人の残した歴史に学び、来る21世紀にむけて新しい長崎のまちづくりに取り組みたいと思います。

以前より英国側から「英国との関係が最も深い長崎になぜ友好団体がないのですか。」との問いかけがありますが、昨年、グラバーさんの出身地アバディーンロータリークラブから長崎ロータリークラブへの交流の申し出がありましたことと、長崎市長一行の同市訪問等、具体的な動きがありましたのを機に、長崎日英協会設立の機運が急速に高まりつつあります。

ここに有志の皆様方に長崎日英協会設立に対してのご理解、ご賛同を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成9年1月7日

長崎日英協会設立世話人代表
十八銀行頭取 野崎元治

長崎日英協会

会長 小川 洋



長崎日英協会は本年3月に設立20周年を迎えました。全国の日英協会の中では歴史の浅い協会ですが、節目の年を迎えるにあたり、これまでご尽力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

さて、日本と英国の関係を紐解きますと、古くは今から400年以上も前の1600年（慶長5年）英国出身のウィリアム・アダムス（後の三浦按針）が大分県臼杵市に漂着し、その後江戸幕府に取り立てられ、西洋文化や造船技術などを伝えたことから始まります。

1613年（慶長18年）にはアダムスを介して平戸に英国商館が設置され長崎との縁（えにし）が始まりました。鎖国政策によりおよそ200年の間、交易や交流が途絶えましたが1854年（嘉永7年）にここ長崎に於いて日英和親条約が締結され英国との関係が復活しました。

そして現在の長崎市大浦の妙行寺に日本で最初の英国領事館が開設され、外交事務が始められました。その後間を置かず1859年（安政6年）に後の長崎に大きく影響を与えることになる英国スコットランド・アバディーン市出身の一人の商人がやって来ました。「トーマス・ブレイク・グラバー」です。グラバーはいち早く英国で起こった産業革命の技術を導入し、当時の新しい日本の産業革新において大いに尽力しました。

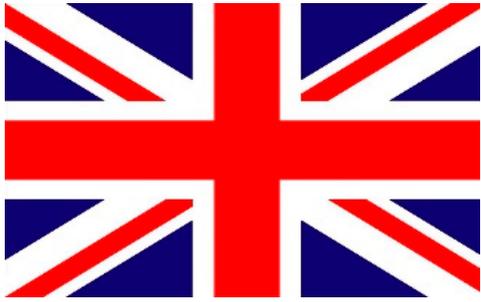
このように長崎と英国は400年以上も前から深い繋がりを持っており、近代になり大きな大戦を経てもその関係は変わらず、1997年（平成9年）に行政及び経済界のご協力を得て市民と市民の交流団体「長崎日英協会」が誕生した訳でございます。

2015年（平成27年）にはグラバーが長崎に残してくれた遺産が世界遺産に登録され、また2019年のラグビーワールドカップ日本大会の事前キャンプ地に長崎が選ばれるなど、かたちを変えて新しい日英交流が現在も続いております。

私も昨年、長崎の英国使節団の一員としてアバディーン市とエジンバラ市を訪問いたしました。長崎からの使節団ということで各地で盛大な歓待を受け、英国の方々の「長崎」に対する温もりを持った思いを感じることができました。

創立20周年、人間でいえばようやく成人を迎えたこととなります。日本で初めてユニオンジャックがはためいた地であることを誇りとして、また新たな気持ちで日英親善交流に努める所存でございます。

今後とも、皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



駐日英国大使館 British Embassy Tokyo



駐日英国大使

ポール マデン

長崎日英協会 設立20周年によせて



長崎日英協会設立20周年に際しまして、心よりお祝い申し上げます。

長崎の方々には、歴史的にも、英国をはじめとする西洋諸国との関係において日本の最前線で活躍されてこられました。16世紀に英国の貿易商が初めて訪れて以来、19世紀のトーマス・グラバーに代表される商人も含め、日本経済の近代化に、英国は少なからず影響してきたと申しても過言ではないかもしれません。20世紀になり、長崎は英国の誰もが記憶に留める、平和の大切さを象徴する世界的なシンボルとなりました。

私が初めて長崎を訪れたのは日本に最初に赴任した頃で、もう25年以上前になります。今年1月に大使として日本に戻ってきてからも、4月の気持ちの良い週末に、妻のセーラと共に長崎で過ごす機会を得ました。まずは平和公園にて、平和祈念像に黙祷を捧げ、その後、市内を観光してまわりました。長崎市内だけでも沢山の観光の名所がありますが、特に記憶に残っているのは美しいグラバー園を散策した時のことです。150年前に長崎に腰をすえた英国人のさまざまな人生を垣間見れたような気がして、とても興味深い訪問となりました。

この度、長崎日英協会が設立20周年の大きな節目を迎えられ、とても嬉しく存じます。日英協会は全国各地で活動されており、それは、日本と英国の絆、そして関係の強さを物語っていると存じます。また、長崎日英協会が取り組んでいらっしゃる多様な活動内容を会報誌BUND等で拝見するにつきましても、長崎日英協会会員の皆様のように、二国間の関係をサポートしてくださるたくさんの方々のおかげ様をもちまして、この絆が時とともに更に深化していると、感じております。今後、30周年、40周年、それ以降も、日英の交流が日英協会のような素晴らしい団体を通して長く続いていくことを心より願っております。

また近いうちに長崎を訪れ、今度は皆様にお会いし、ゆっくりとお話ができることを楽しみに致しております。改めまして、長崎日英協会および会員、ご家族の皆様のご隆盛を祈念申し上げます。

長崎県知事

中村 法道

長崎日英協会 設立20周年に寄せて



長崎日英協会設立20周年、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

長崎日英協会の小川洋会長をはじめ会員の皆様方におかれましては、日頃から英国と日本、そして長崎県との友好交流の拡大にご尽力いただいておりますことに、心から敬意を表し、感謝を申し上げます。

貴協会におかれましては、1997年の設立以来、20年もの長きにわたり、英国に関する様々な交流事業への参加や、県内在住の英国人も交えてのクリスマスパーティの開催など、英国と長崎県との友好交流、相互理解促進のために、活発な活動を続けられておりますことに、改めまして深く敬意を表する次第であります。

また、本年10月には、長崎で、旭日日英協会と合同で記念式典の開催を予定されているとのことではありますが、こうした国内の人的交流を継続していくことは、今後、英国と長崎県との友好交流を深めていく上でも、極めて重要なことだと認識しております。

英国との交流については、海洋再生可能エネルギー分野において、先進地であるスコットランドとの間で、長崎海洋産業クラスター形成推進協議会を中心とする県内企業と英国企業との交流・連携や、大学間の学术交流などが進められています。また、日本で開催されるラグビーワールドカップ2019におきましては、スコットランド代表チームが長崎市において事前キャンプを行うことが決定するなど、幅広い分野において、交流が進められています。

長崎県といたしましても、様々な面で交流・連携を深めてまいりたいと考えておりますので、貴協会の皆様方におかれましても、更なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

設立20周年を契機として、今後も、長崎日英協会が本県における民間の国際交流の推進役として大きな役割を果たしていかれることをご期待申し上げますとともに、貴協会の限りないご発展と皆様方の今後益々のご健勝、ご多幸を祈念申し上げ、お祝いのご挨拶といたします。

長崎市長

田上 富久

長崎日英協会 設立20周年に寄せて



長崎日英協会設立20周年誠におめでとうございます。長崎日英協会の皆様におかれましては、1997年の発足以来、20年にわたり、相互理解と友好交流の促進にご尽力を賜っておりますことに敬意を表するとともに厚く御礼申し上げます。

長崎と英国との歴史的な深いつながりは、旧グラバー住宅をはじめ、旧長崎英国領事館、ジャイアント・カンチレバークレーンなど、数多くの貴重な文化財が英国との交流を現在に語り継いでくれています。また、1859年に長崎に来日したトーマス・ブレイク・グラバーは、造船・炭鉱・鉄道等、日本の主要産業の近代化に多大な貢献をされました。このご縁により長崎市は、グラバーが幼少期を過ごした英国アバディーン市と市民友好都市提携を2010年に結び、現在まで様々な分野で市民間の交流が行われています。

皆様ご承知のとおり、ラグビーワールドカップ2019において、スコットランド代表チームが長崎市で事前キャンプを行います。その事前キャンプに係る調印式とアバディーン市とのさらなる交流促進のために、昨年8月に小川会長をはじめとする長崎日英協会の皆様とともにスコットランドを訪問しました。アバディーン市主催の夕食会では、留学生や民間企業の皆様など100名を超える方々にお集まりいただき、友好交流だけでなく数多くの新たな出会いがありました。また、長崎の中学生選抜チームとスコットランド・エディンバラの代表チームとの交流試合も行われるなど、改めて、グラバーから始まる長崎と英国の友情を実感するとともに、今後の交流が様々な形で発展していく契機になったと考えております。

これもひとえに長崎日英協会の皆様をはじめとした市民の皆様が英国との交流の歴史を大切にし、友好交流を継続していただいたおかげです。

長崎日英協会設立20周年の節目を契機として長崎と英国の絆が強まるとともに、友情がさらに広がり、これから10年、20年と続いていくことを祈念いたします。

一般社団法人日英協会

理事長 塚本 隆史



長崎日英協会 設立20周年に寄せて

このたびは長崎日英協会の設立20周年、まことにおめでとうございます。これまで長崎日英協会の活動を支え、会の発展にご尽力されてこられたご関係の方々に対し心よりお祝いを申し上げます。私ども一般社団法人日英協会が2008年に発行した「日英協会100年史」にも長崎日英協会が1997年3月24日に設立された旨が記されておりますが、日本における日英親善のネットワーク発展への長崎日英協会のご貢献に対し厚く御礼を申し上げます。

長崎は歴史的に英国と特別に深い関係にあります。古くは1613年に平戸にイギリス東インド会社が商館を設立、その後鎖国の時代を経て1854年に長崎の地において日英和親条約が調印され、1859年には日本で初の英国領事館が長崎に開設されました。またわが国の近代化に大きな役割を果たしたトーマス・グラバーやリンガーなどが長崎に居留しており、長崎は開港場として世界に対する窓口であったと同時に、日英関係においても特筆すべき歴史を刻んでこられました。

長崎と英国との関係は現在もさらに深化しており、2015年には「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産として登録されることが決定しましたが、遺産の構成資産の中には多くの英国関連の資産が含まれており、改めて長崎と英国との深い関わりを示すこととなりました。また2019年ラグビーワールドカップにおいてはスコットランド代表がキャンプ地として長崎を選んだと伺っております。

このように長崎と英国は歴史的にもまた現代においても深い絆で結ばれており、その親善交流の関係を維持発展されてこられた長崎日英協会に対し心から敬意を表するものでございます。また長崎日英協会の活発な活動を支援してこられた十八銀行様のご尽力とご貢献に対し心より感謝申し上げる次第でございます。

昨年の国民投票により英国はBrexitを決め、世界に大きな衝撃を与えました。また今日の世界を見渡してみると、英国のみならず世界各国の政治や地政学がリスクの高まりを見せ不透明となっています。しかし政治や経済にいかなる変動が訪れようとも、二国間関係は国民同士の草の根的な交流が活発であれば、長期的には必ずや健全な発展を遂げることができるものと確信しております。

長崎日英協会が20周年を契機にその活動の幅をいっそう広げられ、これから30周年、50周年に向かってさらなるご発展を遂げられますことを心より祈念いたしております。

旭川日英協会

会長 森山 領



長崎日英協会 20周年をお祝いして

長崎日英協会設立20周年を迎えられましたことに心からのお祝いと、協会を支えて来られました小川洋会長をはじめ会員の皆様方のご努力に敬意を表したいと存じます。

ご存知のことではありますが、日英両国の近現代における歴史的な関係の深さは特筆すべきものがあり、特に日本の近代化においてはもっとも影響の大きかった国であると言えます。

お互いに大陸に近接する島国であり、王室、皇室を象徴とする国、議会制民主主義は英国を模範にして大きく日本は世界に羽ばたきました。良きにつけ悪きにつけ様々なことが日本のお手本となり、学ぶことの多い国であったことも事実です。

現代においても、BREXITなど国際関係において深く考えさせられる事柄を提供してくれて、我々に知的応用力の大切さを教えてくれているかのようです。

そんな英国と日本はこれからも大切なパートナーとして様々な事柄を共有していかなければならない重要な国であります。我々日英協会としての役割で大切なことはお互いの国が伝統と歴史を大切にしている文化大国であることを念頭に、文化交流を通じて人と人の理解を深め、日英両国の理解と友好親善に貢献することにあると思います。

素晴らしいことに長崎は歴史的な宝をたくさん有する日本においても稀有な都市の一つであり、私共の新しい北海道の地からすると大変羨むべき憧れの街であります。英国との関連に関しましてもトーマス・ブレイク・グラバーという近代日本の発展に欠かすことのできない英国人は有名で、長崎グラバー邸は、おそらく長崎日英協会ばかりではなく長崎全体の誇りとして大切にされていることと思います。

私共旭川日英協会は英国に纏わる歴史的なものはありませんが、旭川から美瑛、富良野にかけての景色はまさに英国風の丘陵地帯が広がり、この自然が我々旭川日英協会のアイデンティティーと言えるでしょうか。

今年の秋には、憧れの地であります貴地を約30名の会員とともに訪問させていただくことが決定しております。貴協会の皆様方とお会いできることを心から楽しみにしております。

貴協会におかれましても、歴史的なものはおそらくマッサンで有名な余市のウィスキー工場もありますし、何よりも北海道ならではの英国風大自然を満喫するための旭川訪問をぜひお考えいただければと期待いたしております。

これを機に貴協会との交流がますます深くなることを願っております。

最後に、貴協会のますますの発展と会員の皆様方のご健勝を心からお祈り申し上げて、長崎日英協会20周年記念のお祝いの言葉とさせていただきます。

関西日英協会

会長 荒木 直也



長崎日英協会 設立20周年に寄せて

このたび、長崎日英協会におかれましては、設立20周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

長崎といえば、出島や平戸に代表される、鎖国政策を敷いた日本の海外との窓口としてわが国にとって広い外国からの新鮮な空気の取り入れ口であり、海外との交流においては大先輩であります。

幕末にはスコットランド出身のトーマス・グラバー、イギリス出身の三浦按人など英国との縁も深く、坂本龍馬を惹き付けたであろう先取の心意気に溢れたスピリッツは、今日まで営々と引き継がれているのではないかと拝察いたします。

また、個人的に何度か長崎を訪問した際に感じる、明るく伸びやかな風土や気質は、私の地元、神戸と似た印象で大変親近感を感じております。

長崎日英協会におかれましては、我々が申し上げるまでもなく、これら長きに渡って培われた伝統の国際交流と、世界へ開かれた土地柄の自由闊達さを背景に、設立以来20年間に亘り素晴らしい協会を構築されてこられたことと存じます。

私ども関西日英協会は1935年に関西の有力企業と個人により設立し、2年前の2015年には設立80周年を迎えました。現在、マデン駐日英国大使閣下を名誉会長に仰ぎ、エリザベス女王陛下の誕生パーティや、各種講演会など様々な会員の交流の機会を設けております。近年始めた活動と致しましては、毎年10月に開催される阪急うめだ本店の英国展に際し、当協会のPRも兼ねて始めました1日イベント「関西日英協会デイ」は大変好評をいただいております。このような活動を通じまして、引き続き私どもも日英交流に貢献してまいりたいと考えております。

20周年という節目をこえ、貴協会がますます発展され今後30周年、40周年へと歩みを進めていかれることを祈念いたしつつ、誠に簡単ではございますが、お祝いの言葉とさせていただきます。

福岡日英協会

会長 久保田 勇夫

長崎日英協会
設立20周年に寄せて



この度、長崎日英協会が設立20周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。貴協会の地・長崎は「三浦按針」ことウィリアム・アダムスが、今から400年近く前に平戸に英国商館を設立するなど日本と英国との交流に尽くした地であり、その後も長い鎖国が解かれ1859年に長崎英国領事館が設置され、英国との交流の窓口となったという日英関係にとっては由緒ある場所です。そのような英国と長崎との深く長い歴史を踏まえて設立された貴協会は、その交流の歴史を活かして20年の長きにわたり様々な交流活動にまい進し、日英両国の友好、親善、多くの分野における両国の連帯の強化に努めて来られました。

私共、福岡日英協会は1965年に創立され、今年で52年目を迎えたところでありますが、これまで当協会の活動に関しても、各種のご支援をしていただき、深く感謝申し上げます。次第であります。

これもひとえに、初代会長の野崎元治様から始まり、現会長の小川洋様にいたるまで、日英交流を真摯に考え続けて来られた様々な長崎の経済界・文化界の方々をはじめとする協会役員と会員の皆様の熱意と努力の賜物と深く敬意を表する次第でございます。

設立20周年という節目を迎えられたことを契機に、長崎日英協会の皆様がさらに活動の幅を広げられ、今後ますます活躍されることを祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

長崎日英協会初代会長

1997年(平成9年)～2004年(平成16年)

野崎 元治



この度、長崎日英協会が設立20周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

思い起こせば20年前の1997年(平成9年)3月、長崎東急ホテル(現ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒル)にて開催された設立総会において会長の拝命を受け、サー・デーヴィッド・ライト駐日英国大使ご夫妻及び当時の長崎の行政、経済界のご要人の方々のご臨席のもと、盛大に創立記念式典を開催しましたことを昨日のことに覚えております。

さて、長崎と英国との関わりは、17世紀の初め徳川家康に外交顧問として仕えたイングランドの航海士ウィリアム・アダムスによる平戸英国商館の設置に始まり、長崎での日英和親条約の締結、日本の近代化に影響を与えたトーマス・ブレイク・グラバーの来崎など歴史上長きにわたり貴重な足跡を残しております。

このように長崎と英国との400年以上にわたる関係の長さからして、当時三菱重工業株式会社がアバディーンにグラバー邸を復元しようとしていたことなどを考えると長崎日英協会の創立が全国で17番目の創立となりましたことは、まさに遅きに失する感がありました。

私は1997年と2001年の2回長崎日英協会会長として英国及びアバディーンを訪問いたしました。長崎はトーマス・グラバーの影響が大きい街ですから、グラバーの出身地であるアバディーンでは官民あげて盛大な歓迎を受けました。

日英間の交流となると国と国との交流ということで肩に力が入った交流になりがちです。長崎日英協会の交流活動は長崎とアバディーンとの交流といった方がより実態に近く、真の意味で市民間の国際交流ができるのではないかと考えております。

最後に、^{こんにち}今日まで協会の運営にご尽力された多くの方々に心から敬意を表しますとともに、今後とも親善交流に努められ、ますますの貴協会のご発展を祈念いたします。

友好 確かに

長崎日英協会を設立

会長に野崎氏 相互の交流推進

長崎と英国の友好親善を図る「長崎日英協会」の設立総会が二十四日、長崎市内であり、関係者約百五十人が出席、役員や活動方針などを決めた。

会長に野崎元治・十八銀行頭取、副会長に安達健治・安達株式会社社長を選出。親ほくも相互理解のため交流会や歴史文化研究を行う「なでしこ」の活動方針を決めた。

野崎会長は「長崎には幕末に英国領事館が設立され、クラブやイギリス書のきずなをより確かにして、一年が洋式探検、造船、郵便事業など近代化の輝かしい実績を残した。先人の歴史に学び、民間ベースで日英は「長崎と英国のきずなは善を図る講演会、研究会、

歴史だけでなく、造船などで企業間の交流が現在も活発。協会の発展を築き、見守りたい」と述べた。

同協会には約二百の個人・団体が会員として参加。長崎市内に本部を置き、親善を図る講演会、研究会、

スポーツ大会の開催や情報交換などを進めていく。日英協会は、全国に現在、約十五の地方協会がある。一方、ライト大使は総会に先立ち、長崎市役所を表敬訪問し、伊藤市長と歓談、日英両政府などで計画している来年の英国祭に拙れ「九月の長崎居留地まつりで文化的な催しを実施したい」との考えも示した。

「友好をもっと深めましょう」

長崎日英協会を設立

長崎と英国の友好親善を「協会」(代表世話人、野崎元治)が友好団体「長崎日英一元治十八銀行頭取」が24日設立された。長崎市内にあった設立記念総会には、デービッド・ジョン・ライト駐日英大使ら関係者約150人が出席し、今後一層の友好関係を築くことを確認した。



駐日英国大使ら約150人が出席した長崎日英協会の設立総会
＝長崎市南山手町のホテル＝



長崎日英協会設立総会のため来崎したライト駐日英大使(左)。右は伊藤市長

長崎は、幕末から明治時代にかけて日本の近代化に貢献したトーマス・グラバーから英国人と縁が深く、旧英国領事館などの歴史遺産も残っている。昨年、伊藤市長がグラバーの生誕地アバディーン市を訪れて協会設立の機運が高まり、県内経済界などが準備を進めていた。協会の地方組織発足

は全国16番目。7月には長崎側がアバディーン市を訪問予定。総会に先立ちライト大使夫妻ら一行は、松尾副知事や伊藤一長市長をそれぞれ表敬訪問した。市役所で大使は「長崎に協会がないのはおかしかった。設立できて本当によろしい」と、流ちょうな日本語で話した。伊藤市長は「毎年9月の居留地祭のイベントを盛り上げるなど、英国とのかわりをもっと親密にしたい」と述べた。

大使らは25日まで長崎に滞在し、クラブや旧英国領事館(野口弥太郎美術館)、三菱長崎造船所を視察する。

1997年（平成9年）3月24日

長崎市内の長崎東急ホテルに於いて「日英両国の親睦と理解をはかり、両国間の文化の交流に寄与すること」を目的として長崎日英協会が発足されました。設立総会には英国側からサー・デーヴィッド・ライト駐日英国大使ご夫妻及びデーヴィッド・コックラム英国総領事ご夫妻が来賓として出席され、会長には十八銀行頭取の野崎元治氏が選任されました。設立記念祝賀会には関係者約150名が出席し、悲願であった長崎日英協会の誕生を祝いました。



1997年（平成9年）7月2日～13日

長崎日英協会第1回目の親善訪問団が英国を訪問しました。一行は野崎元治長崎日英協会会長を団長とした総勢26名で構成された親善訪問団で、アバディーン、エジンバラ、ロンドンの各都市を訪問しました。参加された中野廣氏（株式会社メモリード顧問）は訪問記に「グラバー、ウォーカーら多くのスコットランド青年たちがこの小さな港町から香港、上海を経て長崎へ渡航してきた往時に思いをはせると、さすがに感慨深く、まさに“遙かなるアバディーン”の感」と綴られました。長崎日英協会のアバディーンへの第一歩を踏み出した年となりました。



1997年（平成9年）9月11日



英国スコットランド・フレザーバラからグラバーファンデーションのアン・マルコム理事長を団長とした一行が来崎されました。伊藤一長長崎市長、野崎元治長崎日英協会会長などを表敬訪問され、今後の英国と長崎との親善交流について意見交換をされました。

Rotary Club Scholarship

1996年（平成8年）

長崎ロータリークラブ及び長崎西ロータリークラブにより「グラバー奨学金制度」が創設され、第1期生として長崎大学経済学部永石明子さんがアバディーン市へ派遣されました。永石さんは2週間の感想を「たくさんの羊の群れ、荒れた海から漁師を命がけで助けるボランティアの民間救助隊など、生まれて初めて見るアバディーン市民の自然の中で生きる姿に感動しました」と述べられました。



Friendship Exchange 1998 » 2000

1998年（平成10年）9月7日

トーマス・グラバーの出身地英国スコットランド・アバディーン市に「グラバーハウス」がオープンしました。この建物はグラバーが事業で得た収入で両親の老後の生活の場として購入したものとされています。三菱重工業が1997年にこの建物を購入し、その後アバディーン市に寄贈後整備復元されたものです。オープニング式典には長崎日英協会からアルバート・ウォーカー顧問が出席いたしました。



1999年（平成11年）12月2日

トーマス・グラバーゆかりの地、英国スコットランド・アバディーン市のマーガレット・スミス市長一行4名の皆様が来崎されました。この来崎を機に長崎とアバディーン市との友好親善の締結を提案されました



1999年（平成11年）7月26日

トーマス・グラバーの実兄チャールズ・グラバーの子孫ジェシカ・ラドグローブさんが来崎されました。ラドグローブさんは会員の川西雅子さん宅に5日間ホームステイしてゆかりの深いグラバー園や平戸などを見学されました。

Rotary Club Scholarship

1998年（平成10年）9月

アバディーン市から「トーマス・グラバー奨学生」としてスコット・テーラーさんが来崎されました。テーラーさんは長崎の大学や企業などで貿易や会計を研修するとともに居留地まつり見学や茶道体験、ホームステイなどで長崎との交流を深められました。



2000年（平成12年）4月4日



英国スコットランドからトーマス・グラバーファンデーションのアン・マルコム理事長が来崎されました。マルコム理事長は「長崎から多くの方々にアバディーン市を訪問し、長崎の文化を紹介していただきたい」と述べられました。

2000年（平成12年）6月9日



アバディーン市のトーマス・グラバー記念館の内装や展示に携わられたマイク・ヘンドリー氏が英国スコットランドから来崎されました。ヘンドリー氏は長崎日英協会の他、グラバー園や県立図書館などを訪問されました。

Rotary Club Scholarship

2000年（平成12年）3月15日

英国の国立科学博物館・産業博物館（ロンドン）の主任学芸員ロバート・マックウィリアム氏が来崎されました。マックウィリアム氏の曾祖父ジョン・ヒル氏は1884年（明治17年）から1900年（明治33年）に亡くなるまでボイラー製造主任として三菱造船所に勤務されました。お墓は坂本国際墓地にあり、このたび没後100年目に当たることから墓参のため来崎されたものです。



2000年（平成12年）8月30日

アバディーン市から「トーマス・グラバー奨学生」としてコリーン・バターソンさんが来崎されました。長崎には約2週間滞在してホームステイや企業研修を通して日英交流に務められました。



Friendship Exchange 2001 » 2004

2001年（平成13年）7月7日～7月14日

野崎元治長崎日英協会会長を団長として「JAPAN2001親善訪英団」一行がアバディーン、エジンバラ、ロンドンを訪問いたしました。アバディーン市庁舎ではマーガレット・スミス市長はじめ関係者から盛大な歓迎を受けました。市内の美術館では訪英団に参加された長崎の生け花関係者15名による生け花の展示会を開催いたしました。長崎日英協会として2回目の親善訪英団でした。



2002年（平成14年）10月25日

グラバー園にて英国貿易促進事務所のリチャード・ライル所長によるイングリッシュ・オーク苗木の「日英グリーン同盟2002」記念植樹式が執り行われました。「日英グリーン同盟2002」とは日英同盟100周年を記念する事業で、このイングリッシュ・オーク苗木は英国大使館から英国とゆかりの深い国内171か所へ贈られたもののひとつです。記念植樹式には鈴木一郎副会長が出席しました



2001年（平成13年）4月2日

アバディーン市からグラハム・ドナルドソンご夫妻をはじめとするバルゴニーロータリークラブ一行8名が来崎されました。バルゴニーロータリークラブは1996年（平成8年）から長崎ロータリークラブ及び長崎西ロータリークラブと「グラバー奨学生」の相互派遣事業を行っており、親善交流のため来崎されました

Rotary Club Scholarship



2002年（平成14年）9月5日

アバディーン市から「トーマス・グラバー奨学生」としてジュディス・マクドナルドさんが来崎されました。マクドナルドさんは長崎に約2週間滞在し、長崎の歴史や経済などを学びながら日英の親善交流活動に努められました。



2004年（平成16年）5月29日

昨年に続きニール・フック在大阪英国総領事夫妻が来崎されました。今年の日英和親条約が調印されてから150年の節目の年に当たることから、調印が行われた長崎での記念イベントについてご提案されました。



2004年（平成16年）10月15日

グレアム・フライ駐日英国大使をお招きして旧三菱第2ドッグハウス前庭に於いて日英和親条約締結150周年記念式典「記念の夕べ」を開催しました。記念式典には、長崎日英協会会員の他関係者の方々約140名にご出席いただき、節目の年に日英交流の歴史に新たな1ページが書き記されました。

2003年（平成15年）5月26日

スティーブン・ゴマソール駐日英国大使が来崎されました。ゴマソール大使は長崎港内停泊中のダイヤモンド・プリンセス号の視察や野崎元治長崎日英協会会長との対談など精力的に日英親善に努められました。



2003年（平成15年）6月20日

ニール・フック在大阪総領事夫妻が来崎されました。フック総領事は関係機関を表敬訪問され「講演会などを通じて英国との一層の交流が深まることを期待しています」と述べられました。



Friendship Exchange 2006 » 2011

2007年（平成19年）11月2日

長崎全日空ホテルグラバーヒルに於いて「長崎日英協会設立10周年記念パーティ」を開催いたしました。パーティには在大阪英国総領事館よりデーヴィッド・アボット副総領事ご夫妻をお招きして関係者約100名にご出席いただきました。パーティの第二部ではオペラ「蝶々夫人」を取り入れた「長崎蝶々絵巻」やフルート、クラリネット、ピアノのアンサンブル演奏などが披露され節目の年を全員でお祝いしました。



Rotary Club Scholarship

2006年（平成18年）8月21日

アバディーン市から「トーマス・グラバー奨学生」としてアバディーン大学の学生カトリオーナ・ワットさんが来崎されました。ワットさんは長崎に2週間滞在し、歴史や文化を学びながら日英の親善交流活動に努められ「将来はグラバーの功績を子供たちに教えていきたい」と述べられました。



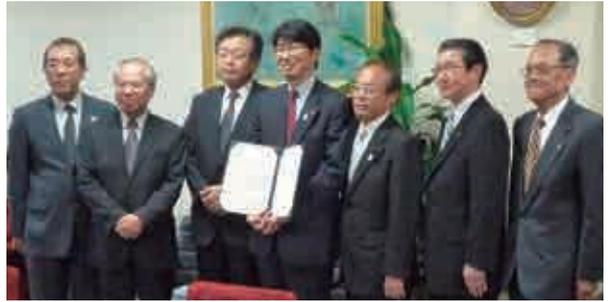
2008年（平成20年）7月10日

アバディーン市から「トーマス・グラバー奨学生」としてアバディーン大学学生マルコム・ホワイトさんが来崎されました。ホワイトさんは2週間の長崎滞在中に長崎の歴史や文化の他、小児医療や医療行政などを学ばれました。



2010年（平成22年）6月28日

長崎市はアバディーン市との間で「市民友好都市提携」を結ぶ確認書に署名をいたしました。この市民友好都市提携は1996年（平成8年）から始められた長崎市とアバディーン市両ロータリークラブによるトーマス・グラバー奨学生の相互派遣事業や、1997年（平成9年）に設立された長崎日英協会の活動など市民が主役となった親善交流事業がその礎となりました。



2011年（平成23年）3月24日

アバディーン市にあるトーマス・ブレイク・グラバー財団よりジェフ・ゲーリック氏が来崎されました。この度の訪問は2010年に村木文郎長崎日英協会副会長がアバディーン市を訪問しゲーリック氏と面談した際に、ゲーリック氏が「ぜひ私もグラバーゆかりの地である長崎を訪問したい」と希望され実現したものです。ゲーリック氏は長崎滞在中に三菱重工業や長崎大学図書館などを訪問され、長崎大学図書館ではトーマス・グラバーの子息倉場富三郎が編集したグラバー図譜を感慨深げにご覧になりました。



2010年（平成22年）9月17日

デイビッド・ウォレン駐日英国大使が来崎されました。ウォレン大使は来崎記念講演会でのご講演やグラバー顕彰式への出席などへ精力的に日英親善に努められました。また同日はフレデリック・リンガーのひ孫にあたるリチャード・ビュルゲヘルト氏も英国グロスターシャー州から参加いただき、同氏より当時のボートレースの優勝カップや写真などリンガーの遺品150点がグラバー園へ寄贈されました。



Rotary Club Scholarship

2010年（平成22年）7月17日

アバディーン市から「トーマス・グラバー奨学生」としてケリー・ジョンソンさんが来崎されました。ケリーさんは長崎に3週間滞在し、お別れ会のご挨拶では「3週間の短い期間ではありましたが、素晴らしい経験とたくさんの友達を作ることができました。長崎とアバディーン両市の国際交流の架け橋となるよう今後も努力したい。」と述べられました。



Friendship Exchange 2012 » 2014

2012年（平成24年）9月21日

ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルに於いて、長崎日英協会創立15周年記念祝賀会を開催いたしました。記念講演会では講師として在大阪英国総領事館よりサイモン・フィッシャー総領事をお迎えしてご講演をいただきました。講演会後の祝賀会にはフィッシャー総領事の他長崎県より石塚副知事、長崎市より田上市長に来賓としてご出席いただき総勢60名の方々と節目の年をお祝いしました。



2013年（平成25年）2月6日

（財）自治体国際化協会（略称：CLAIR）ロンドン事務所の幹部役員7名の方々が来崎されました。長崎日英協会では長崎県国際課と連携して歓迎夕食会を開催しました。一行は滞在期間中長崎市内でのホームステイや平戸市や五島市などの訪問を通じて日英親善交流に努められました。



2014年（平成26年）2月24日



アバディーン市から市議会リーダー バーニー・クロケット氏、企業・計画・インフラ局長ゴードン・マッケントッシュ氏、上級職員ヤサ・ラトナイエケ氏の3名の方々が来崎されました。一行は平和公園、原爆落下中心碑、原爆資料館などを訪問された後、三菱資料館、グラバー園などグラバーゆかりの地も訪問されました。歓迎夕食会には田上市長の他、ロータリークラブや三菱重工などアバディーン市と関係の深い企業、団体の方々が参加され、150年以上前にグラバーによってもたらされた長崎と英国との縁について話は盛り上がり、たいへん有意義な会となりました。長崎日英協会からは篠原会長が参加されました。

Rotary Club Scholarship

2012年（平成24年）8月14日



アバディーン市から「トーマス・グラバー奨学生」としてタニタ・マックスウェルさんが来崎されました。マックスウェルさんは英国帰国後、3週間の長崎滞在を振り返り「美しい景色、親切な人柄、美味しい食べ物など、長崎では素晴らしい体験をすることができました」とのレポートを送っていただきました。



2013年（平成25年）11月26日

2013年（平成25年）は、1613年（慶長18年）平戸に英国商館が設置されてから400年になります。平戸市では官民が一体となって記念事業実行委員会を立ち上げ「市民主役のまちづくり」を合言葉に、観光・文化・国際交流などの分野で市民からの提案にもとづき25の記念事業を実施しました。11月26日にはティム・ヒッチンズ駐日英国大使にご来賓として出席いただき、盛大に平戸英国商館設置400周年の記念式典が開催されました。



2014年（平成26年）10月24日

マイケル・シアラー在大阪英国総領事をお招きしてANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルに於いてグラバー園開園40周年の記念レセプションが開催されました。

レセプションには長崎日英協会の他、経済界、旅行代理店など関係者約150名が参加されました。シアラー総領事はご挨拶の中で「グラバー園が日英友好の象徴として地域の活性化に貢献し続けることを強く願います」と述べられました。

Rotary Club Scholarship

2013年（平成25年）

グラバー奨学生として長崎大学の大渡美里さんが8月18日から3週間アバディーン市で留学活動をしました。大渡さんはアバディーンでの滞在期間中トーマス・グラバーの故郷を訪問、小学校の子供たちとの交流などを通じて「アバディーンでの3週間は私が想像していたよりも遥かに充実していて大変刺激的な毎日でした」と振り返っていました。



2014年（平成26年）8月18日～9月8日

アバディーン市から「トーマス・グラバー奨学生」としてアンドリュー・ツイディーさんが来崎されました。ツイディーさんは長崎での3週間の滞在経験を振り返り、「ホストファミリー以外の方々にもあたたかく接してもらい自分の故郷のように感じた、美味しい食べ物、歴史、文化、そして先進技術についても学ぶことができとても有意義な毎日でした」と感想文を送ってくれました。



2016年度理事会・通常総会開催

2016年（平成28年）6月15日（水）、ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルに於いて長崎日英協会理事会及び通常総会を開催いたしました。

通常総会では、平成27年度の事業報告・決算及び、平成28年度の事業計画・予算等が審議承認されました。また平成23年から5年間会長を務めていただいた篠原俊一氏が退任され、新会長に小川洋氏が選任されました。総会終了後、長崎県ラグビーフットボール協会 松本浩 理事長に「ラグビーワールドカップと長崎」と題してご講演いただきました。講演をお聞きしてラグビーが持つ紳士的なスポーツマンシップを改めて感じることができました。



平成28年度理事会



講演される 松本 浩 氏



平成28年度通常総会

グラバー顕彰式

2016年（平成28年）9月17日（土）旧グラバー住宅前に於いて長崎市主催の「第37回グラバー顕彰式」が執り行われました。式典には田上富久長崎市長をはじめ、英国との親睦団体の代表者が出席され、在りし日のグラバーを偲びその功績を称えました。参列者の献花の後、地元の居留地男声合唱団の皆様によるスコットランド民謡「ロッホローモンド」と居留



地キッズコーラスによる小山薫堂氏作詞の「ふるさと」が披露されました。当日は秋晴れの澄んだ青空の下ユニオンジャックが誇らしげにはためいていました。長崎日英協会からは小川会長と安田事務局長が出席いたしました。

クリスマスパーティー長崎日米協会と合同開催

平成 28 年 12 月 8 日、ANA クラウンプラザホテル長崎グラバーヒルに於いて「長崎日米協会・長崎日英協会合同クリスマス夜会 2016」を開催いたしました。今年で 8 回目となる本パーティーには、在福岡米国領事館広報企画官 宮内雅之氏をお招きし、両協会の会員の他長崎在住のALT(英語教師)、CIR(国際交流員)、留学生、英米関係者など過去最高の約 150 名の方々にご参加いただきました。

今回は“Let's open our hearts and talk together!”をキャッチフレーズに掲げ、プレゼント抽選会の他に外国の方々と会員の方々がペアを組んでゲームを行い、会場内ではジェスチャーを交えた片言の英語や日本語が飛び交い、終始和やかな雰囲気、一足早いクリスマスを楽しんでいただきました。



賑やかなプレゼント抽選会の様子



ゲームを楽しむ様子



挨拶をされる宮協会長

ながさき異文化ちゃんぽんフェスタへブース出展



会場の様子

2016 年(平成 28 年)12 月 3 日(土)長崎ブリックホールに於いて、市民が在住外国人と触れ合う「長崎異文化ちゃんぽんフェスタ」が開催されました。当日はアメリカ・フランス・ベトナム・アフリカ諸国など 13 ヶ国の在住外国人の方々が、民族衣装の試着や民族楽器の演奏などが体験出来るコーナーを設けて市民との交流を行い約 750 名の方が参加いたしました。また、今年度は「Nepalese in Nagasaki」というネパールの衣装体験ブースが初参加でした。長崎日英協会ではバグパイプの演奏体験やキルトの試着を楽しんでいただくブースを出展いたしました。

ラグビーワールドカップ2019 スコットランド代表来崎

平成 28 年 6 月 28 日 (火) ANA クラウンプラザホテル長崎グラバーヒルに於いて、ラグビースコットランド代表チーム (S.R.U.) の来崎歓迎食会を開催いたしました。本昼食会は、ラグビーワールドカップ 2019 長崎市キャンプ誘致委員会が推進する「ワールドカップ出場チームのキャンプ誘致を通しての国際交流」の一環として開催したものです。

昼食会には S.R.U. 最高経営責任者マーク・ドットソン氏の他コーチ、選手、総勢 12 名と長崎日英協会の会員 40 名が参加し、ラグビーやスコットランドの話で大いに盛り上がりました。

特に現役選手のショーン・ラモント (バックス)、ジョン・ハーディー (フランカー)、長身 (207cm) のリッチー・グレイ (ロック) の 3 選手の周りにはたくさんの会員の方々が集まり、3 選手は握手や記念撮影に気楽に応じていました。

▶リッチー・グレイ選手



◀ショーン・ラモント選手



▲集合写真

スコットランド訪問

平成 28 年 8 月 20 日（土）～26 日（金）の間、長崎市公式親善訪問団に参加してスコットランドを訪問いたしました。この公式親善訪問団は長崎市長、市議会議員、長崎県ラグビーフットボール協会及び長崎日英協会会員で編成し、スコットランドのアバディーン市とエジンバラ市を訪問したものです。

一行はまず最初に長崎市と市民友好都市の関係にあるアバディーン市を訪問しました。アバディーン市はトーマス・グラバーが幼少期を過ごした港町で英国では最も長崎とゆかりの深い街です。市庁舎ではジョージ・アダム市長やヤサ・ヤトナイエケ上級職員その他、多くの方々から盛大な歓待を受けました。

その後エジンバラ市へ移動して、ワールドカップの事前キャンプ実施の調印式に参列して青少年のラグビー親善試合を観戦、夜にはスコットランドラグビー協会との懇親会に出席いたしました。

長崎日英協会からは小川洋会長、牧文春副会長、松藤章喜副会長、吉田茂視理事、高田裕治会員が訪問団に参加いたしました。



アバディーン市庁舎にて



調印式

アバディーン市長 来崎

平成 29 年 2 月 5 日（日）～7 日（火）の間、アバディーン市のジョージ・アダム市長とヤサ・ヤトナイエケ上級職員のお二人が長崎を訪問されました。訪問の目的はアバディーン市と日本の主要都市との親善交流促進のためであり、長崎市のほか、東京都、大阪市、名古屋市、神戸市を訪問されたものです。長崎市の田上市長との表敬訪問時には、昨年の長崎市の親善訪問の件やラグビー交流の話題で大いに盛り上がりました。アダム市長は今回が初めての来崎で市庁舎の他、グラバー邸、出島、原爆資料館、軍艦島、三菱重工業資料館などを視察されました。



～長崎の英国人紹介～ 英国人紹介 アダム エーア

プロフィール：ALT（桜馬場中学校、伊良林小学校、諏訪小学校）

○日本に来た動機

私は、いつも新しい体験をしたいと思っています。中学生の時、初めてフランス語を勉強しましたが、その時からいろんな国の言葉に興味を持つようになりました。大学生の時には、フランス語とオランダ語を勉強しました。イギリスの大学では外国語を勉強するために、1年間海外へ行かなければなりませんでしたが、大学を卒業するころ私は、ほかの国に行き、もっといろんな言葉を学びたいと思いました。今までアジアへは行ったことがありませんでしたが、特に日本は面白い国らしいと聞いていたので、今回日本にやってきました。



○日本について興味があること

私は、子供のころ、ポケモンゲームと古いゴジラ映画が大好きでした。また、日本の漢字か中国の漢字かはっきりとは覚えていませんが、初めて漢字を見た時、とてもきれいだなと感じました。日本に来る前にイギリスで「すし」と「たこ焼き」は、食べたことがありました。しかし、日本に来てからさらにいろいろな美味しい食べ物を発見しました。豚骨ラーメン、お好み焼き、馬刺し、和風な汁物など大好きです。イギリス人は、紅茶が大好きです。私は、専門家ではないですが、紅茶以外のいろいろなお茶を飲むことも大好きです。2年前に茶道を習う機会がありました。作法は、難しかったですが、とても楽しかったです。



○九州の魅力について

この仕事の話もらった時、私は長崎以外の九州について全く知りませんでした。イギリスからの観光客は、主に東京、大阪、京都に行きます。私が、長崎に引越する時、友達や祖母は少し心配していました。それは、1945年の原爆の影響残っているのではと思っていたからです。友達や親族は、心配していましたが、原爆以外の長崎の歴史についてはあまり知りません。私は大学で、出島について勉強していましたから長崎に行けることはとても嬉しかったです。私の両親は、九州へ2回行ったことがあります。日本では、関東や関西より九州が好きです。九州は、東京や京都ほど観光客が多くありませんが、魅力がいっぱいです。きれいな自然、歴史的な場所、そして優しい人々。特に私にとっては、多くの温泉と美味しい食べ物が魅力的です。特に九州のラーメンは日本一です！

事務局より

新規会員募集中！

長崎日英協会では新規入会の会員を募集中です。会員の皆さま方の中でご紹介いただける方がいらっしゃいましたら是非ともご加入をお奨めいただきますようよろしくお願いいたします。

会費	個人会員	年会費	5,000円
	法人会員	年会費	10,000円

編集後記

○ 10月8日（日）旭川日英協会様と長崎で記念祝賀会を開催いたします。旭川日英協会様は協会設立25周年を迎えられます。このたび総勢29名で長崎を訪問されることになりました。思い出に残る有意義な記念祝賀会となりますよう準備に務めます。

○ 協会設立20周年の編集につきまして、多くの皆様方からご協力をいただき、まことにありがとうございました。編集の作業を通して、設立時の発起人を始め関係者の方々の設立にかけた熱意を感じることができ、また英国と長崎との深い関係をあらためて認識することができました。

編集・発行/長崎日英協会（株式会社 長崎経済研究所内）
住所：〒850-8618 長崎市銅座町1-11 十八銀行本店7階
担当者：安田・岩永
TEL:095-828-8859 FAX:095-821-0214